

(お知らせ)

定期検査中の柏崎刈羽原子力発電所5号機原子炉建屋における
養生シートの焼失痕の発見について

平成19年4月4日
東京電力株式会社
柏崎刈羽原子力発電所

当所5号機(沸騰水型、定格出力110万キロワット)は第12回定期検査中ですが、原子炉格納容器内(原子炉建屋地下1階)において、原子炉再循環系配管の仮設サポートの切断作業を行っていた協力企業の作業員が、作業エリアに異臭がしたため周囲を点検していたところ、本日午後6時30分頃、作業エリアの下の位置にあるペDESTAL(原子炉压力容器の台座)内に敷いてあった養生シートが焼失した痕跡を確認したことから、午後9時30分頃、消防署へ連絡いたしました。

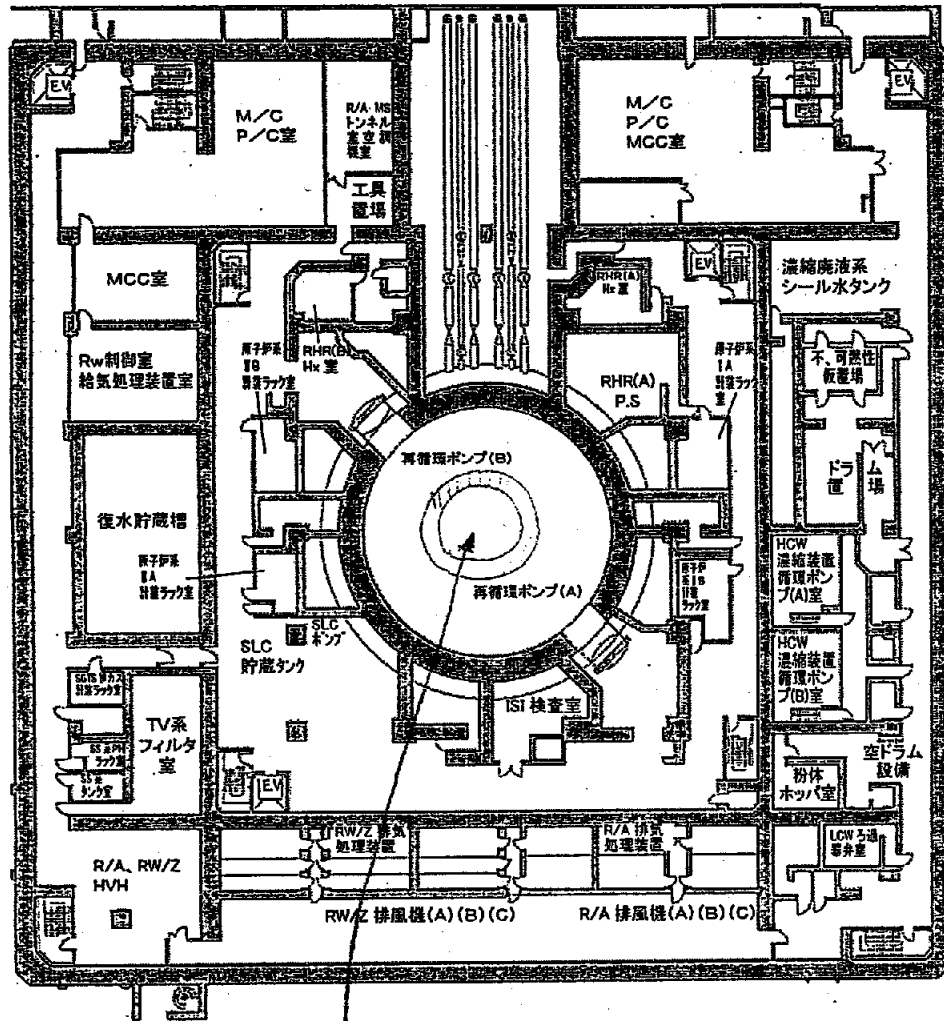
その後、消防署の現場確認により、午後10時58分に鎮火していることが確認されております。

調査の結果、仮設サポートの切断作業の際に発生した火の粉が、ドレン配管の貫通部の隙間を通じて、作業エリアの下にあるペDESTALに飛散し、ペDESTAL内に敷いてあった養生シートが焼失したものと推定しております。今後、原因を調査いたします。

なお、作業員にケガはなく、これによる外部への放射能の影響はありません。

以上

柏崎刈羽原子力発電所5号機 原子炉建屋 地下1階



発生場所
(D/W内 ベデスタル)

原子炉格納容器概略図

